

-----  
題 言  
-----

## 大 東 京 の 實 現

東京市は十月一日を期し、隣接五郡八十二個町村を併合して新に二十區を制定し、多年の懸案となつてゐた市域擴張の問題を解決した。この併合によつて、東東は面積 166,193,802 坪、人口 4,970,426 人を擁する大都會となつたわけである。之を併合前と比べれば、面積に於て 683 % の増加となり世界第五位、人口に於て 240 % の増加を見、實に世界第二位の地位を占めることゝなつた。

東京を生活の本據とする人間の居住地が、今回合併された區域に普ねく、或はそれ以上にも及んでゐること、即ち五郡八十二町村民の大多數は實際上東京市民と云つて差支へないことを知つてゐた我等は、むしろこの併合の餘りに遅かりしを感じる。かつて獨乙のある有名な保健學者が、次の様なことを云つたことがある。獨乙は莫大な金をかけ非常な努力をして、折角國內の衛生状態を整頓し、悪い傳染病などは國內から驅逐してしまうほどの状態を築きあげたにも拘らず、境を接するロシアの衛生施設が非常に悪いため、悪疫は常に國境を越えて獨乙を侵害するので、折角の衛生施設も役に立たなくなる』と、併合前に於ける東京市と隣接町村の關係には、まことに之と相似するものがあつた。一本の道路にしても、下水渠にしても、或は交通機關、上水道、塵埃處理、屎尿處分等々の問題にしても、各々獨立した個々の自治體であつたため、その施設に統一聯絡を見ること少く、市民又は町村民の被つてゐた不利不便は莫大なものであつたらうと思ふ。それが今回の併合によつて、大東京市として統一された方針のもとに施設されることになつたのだから、まことに慶祝に堪へない次第である。

然し乍ら、都市として、人口又は面積の大であることは必ずしも誇りとするに足るもの

ではない、要はその文化施設の如何にある。我等はこの記念すべき大併合に際し新に生れたる大東京市に對して、都市計畫的秩序と統制のもとに、文明都市としての凡有る施設を完備し、たゞに數量的ばかりでなく、その質に於ても世界何れの國都に比するも耻かしからぬ大都市として成長することを希望してやまぬものである。

### 山 口 貯 水 池 竣 功

大東京の實現と殆んど期を同うして、かねて第二期擴張計畫により築造中に係りたる東京市水道山口貯水池が大部分完工し、十月十五日永田市長の開扉によつて通水が開始せられる。全部の工事が完了して實際使用するのは來年の渇水期をと見られてゐるが、ともかく僅か二ヶ年の月日を以てして、長さ 691 米、高さ池底上 30.7 米、盛土總坪 218,000 坪と云ふ龐大なる土堰堤の築造を了へ、17,700,000 立方メートルの大貯水池を完成せしめたのは、本邦土工史上特筆すべき事がらである。

由來東京市の水道は、その需要の増加につれて、或は之に魁けて夫れに應じて行く擴張工事にその最も大いなる特徴が存する。然して擴張工事は、その因習に捕はれざる施工法に於て勝れたる特異性を見るのが常だ。先に本誌にその概要を掲げたる和田堀淨水池の特殊設計、同じく送水鋼管の現場銲接、而して茲に幾つかの新らしき施工法と研究を生んだ山口貯水池工事、特にその引出隧道のライニングに應用されたる鋼管現場銲接は、斯種工事として實に驚歎すべき新工夫と云はなくてはならぬ。

我等は、かく新らしき工夫を次々と案出し舊來の慣習にとらはれずして之を直ちに實施してくれる東京市水道擴張課の勞を大いに多とすると共に、大東京市域擴張の實現せる秋恰も竣功を見たる山口貯水池工事を特輯し、廣く斯界に報じ得ることを大いなる喜びとするものだ。